

過酷な環境に生きる植物の不思議な力。
 ルイボスは抜群の抗酸化力を持ち、アレルギー反応を惹き起こすヒスタミンを抑える力のあることが知られています。

アフリカ大陸最南端、南アフリカのセダルバーグ山脈地帯だけに自生しているルイボスは黄色い可憐な花を咲かせるマメ科の針葉植物です。乾燥した大地から水分と養分を吸い上げるため、その根は地中深く3メートル以上にも伸び、張り巡らせた根から鉄・カリウム・亜鉛やその他のミネラルを吸い上げ、蓄えています。

昔から地元の人たちは、病を治してくれる貴重な植物を、ルイ（赤い）ボス（藪）の奇跡として、大切に育ててきました。植物はすべて自分の体を紫外線の活性酸素から守る抗酸化能力を持っていますが、特にルイボスの赤い色素が持つフラボノイドの抗酸化力は、他の茶類の比ではありません。

また、特筆すべきは、ルイボスが持つ抗ヒスタミン作用です。炎症研究の第一人者、丹羽耕三博士はその論文の中で、アレルギー疾患の患者さんに対するルイボスの臨床結果を発表しています。(表1・表2)

「ルイボステイティーにはアレルギー反応を惹き起こす犯人であるヒスタミンを抑える力のあることが知られたが、実際にアレルギー患者に内服させた治療結果を、表1に示してみます」と作用が出現する即効性では他の医薬品には及ばないが、有効率はかなりの高率で見られた

「ルイボステイティーは、熱、痛み、腫れなど一般の炎症反応で生じる諸症状を始め、痒み、発疹、喘息、鼻炎などのアレルギー性疾患といった具合に、非常に広い範囲の薬理作用のあることが知られた」とまとめられています。

このルイボステイティーを、治療用に濃縮焙煎しフリーズドライにより粉末にしたものがルイボスTXです。ルイボスを始め植物は栄養分とともにフラボノイド※やミネラルなどの抗酸化成分を、体内に溜め込んでいて、フラボノイドは100g中、約38mgも含まれています。



※フラボノイドは植物に含まれている色素成分。活性酸素の働きを抑制し、ガンや動脈硬化を防ぎます。さらに毛細血管を丈夫にし、血流をよくするなど大切な働きがあります。またアトピーやアレルギーの原因になるヒスタミン物質の作用を抑える力があることでも知られています。

親和性の高い、効果や作用をもつルイボスは貴重なオーガニック資源

全世界の「茶」の総生産量のわずかに1%にも満たないルイボスは希少価値の高い植物で、セダルバーグ山脈地帯でのみ、無農薬で栽培されています。ルイボスは有効成分を濃縮した粉末タイプとティーバッグの煮出しタイプがあり、お茶としてお楽しみいただけます。日本茶と同じように等級があり、アオバでは最上級の茶葉「スーパーグレード」を使用しています。(南アフリカ政府が管理・品質保証をし、葉の部位や色、香りや味によって選別されます)

表2 ルイボステイティーの抗IgE惹起ヒスタミン遊離への濃度依存症の影響

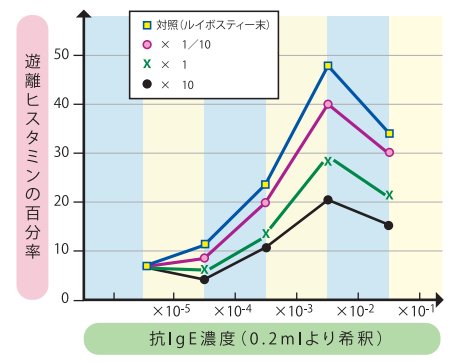


表1 ルイボステイティーのアレルギー疾患患者に対する臨床効果

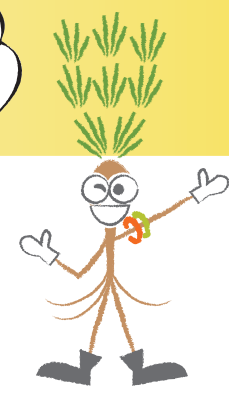
	(症例数)	有効	やや有効	無効	判定保留	作用発現に要する平均日数	有効率
慢性じん麻疹	21	10	5	6	0	5.5日	71%
気管支喘息	15	5	4	5	1	18.6日	64%
アレルギー性鼻炎	8	2	2	3	1	14.5日	57%

丹羽博士論文より抜粋



あなたには何かアレルギーがありますか？
 「春になると、鼻がグシュグシュ。
 眼はシヨボシヨボ。花粉症なんです」。
 そんな人が4人に1人。
 もはや花粉症は国民病なのです。

辛い時期を迎える前に、
 体質改善しよう!!



花粉症は昔にはなかった現代の病？

花粉症とは、ひと言でいえば「花粉が原因のアレルギー疾患の一種」。カラダの中の免疫機構が花粉を細菌と同じように、「カラダに害を及ぼす危険なもの」と判断して、これを排除しようとするカラダの働きの結果なのです。具体的には目のかゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりが続きます。

医学では生きていく上で必須な免疫反応の中で、カラダに不都合な免疫反応を「アレルギー」と呼んでいます。なぜ今になってスギ花粉が悪さを始めたのでしょうか。

準備万全ですか？

花粉症対策



お問合せ はカスタマーサービスまで
 TEL: 0120-142039

株式会社エーオーエーアオバ
 〒112-0015 東京都文京区目白台3-4-11 ジーエフビル
 TEL 03-5976-1411(代) http://www.aooaova.jp/

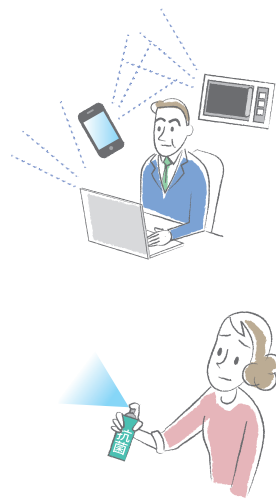
丹羽博士論文より抜粋

1960年代から急速に増加したアレルギー疾患

日本で初めてスギ花粉症の症例が認められたのは、今から約60年前。1963年のことでした。患者さんは栃木県日光市に住む成年男子でしたが、日光のスギ並木は400年前近くに植えられたもので、スギ花粉は昔から飛んでいたのです。ということは昔の人はスギ花粉を異物としてアレルギーをおこすことがなかったと推測できます。スギ花粉症は第一号患者が出た1963年から毎年のように増えていくのですが、1960年代の中頃は結核や寄生虫の感染者が減り、清潔志向が高まっていく頃と重なります。それと同時にそのほかの花粉症やアトピー、ぜんそくなどのアレルギー疾患も猛威をふるい始めました。



現代人は子供のころから清潔すぎる環境で暮らしているため、菌やウイルス・カビに対抗して働く免疫力を身に付けていないことも原因とされ、あえて体の中に微量の菌を入れるBCG（結核のワクチン）接種による花粉症治療も行われるようになりました。



いまは

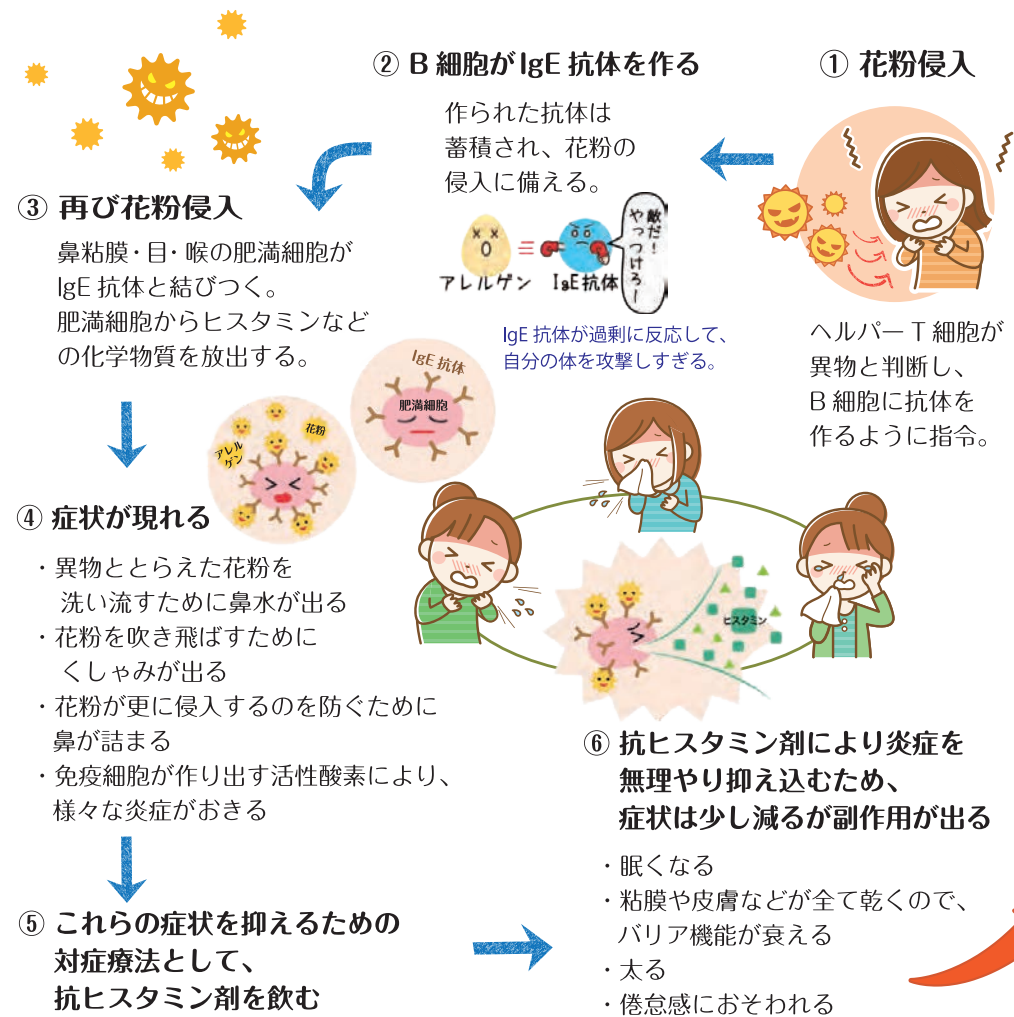


むかしは



花粉症のつらい症状の正体は「抗原抗体反応」と呼ばれるもの

有害な生物やウイルス、物質がカラダに入ってくると、この反応が起こりますが、ここでそのメカニズムについてご説明します。



このメカニズムに対抗するために用いられる抗ヒスタミン剤は、悪循環を招いているだけなのがわかりますね。

花粉症になる人とならない人

同じ環境で暮らしているのに、花粉症になる人とならない人がいるように、ヒトの免疫力と大きく関わっているようです。免疫がきちんと働いていると、菌やウイルスなど自分の体にとって不都合な異物が侵入してきたときや、自身の体の中に不都合な新生物（ガン細胞など）が発生したときに免疫細胞がこれを攻撃して自分の体を守ります。

ガン細胞をやっつけてくれるNK細胞（ナチュラルキラー）は、良く知られています。要は免疫力が低下すると感染症やガンにかかりやすくなるということです。

花粉症発症のメカニズムで、花粉が侵入したとき、免疫細胞の一つ、ヘルパーT細胞が異物と判断すると書きましたが、なぜ無害であるはずの花粉を有害と判断して抗体を作るよう指示してしまうのか、これは広い意味での免疫力低下により、ヘルパーT細胞が正常に働けなくなったと考えられています。

花粉症に効く万能薬ってあるの？

健康情報が、巷にあふれかえる現代、自分にあった治療法や予防法を見つけ出し、健康を手に入れる人は数多くいます。しかし、中には効くと言ってもごくごく一部の人にしか効果のない対策であったり、しばらくすると淘汰され消滅するような不確かな情報が含まれていることも事実です。

伝える側にとって、アレルギーは難しい病の代表格とされてきましたが、ここに至りて根治の鍵となる「Tレグ」というかわった名前の免疫細胞を、意図的にコントロールする臨床試験の結果が、将来に向け、明るい兆しを見せていますが、現時点では万能とは言えません。とはいえ昭和30年代まではスギ花粉に対して過剰な免疫反応をおこさなかったのですから、今日からでも生活習慣や食事を見直しましょう。



食べてはいけないもの
コーヒー・ココア・チョコレート (刺激物として症状悪化) 肉・乳製品 (免疫の働きを狂わせる) 餅・玄米・ワラビ・たけのこ (ヒスタミン物質を含むため) 丹羽博士の食事指導より

① 症状を悪化させないために

- ・マスク、帽子、衣類を工夫し、花粉を持ち込まない
- ・食事内容を見直す
(丹羽療法では、免疫疾患系の患者さんへ独自の食事指導をおこなっています)

② 症状を改善させる

- ・天然の抗ヒスタミン物質を摂る
ルイボスティーには天然の抗ヒスタミン作用をもつ成分が含まれるので、濃縮した物（ルイボスTX）を症状が現れる2か月前くらいから飲む
- ・日本食中心にした献立にし、消化吸収を良くするため、しっかり咀嚼して食べる

③ 免疫の働きを良くする

- ・活性酸素を除去し、免疫力を上げる抗酸化食品「SOD様作用食品」を摂る
- ・腸を冷やさないう冷たいものを飲食することをやめ、発酵食品・繊維質の多い食品を摂る
(腸内環境を整えることで免疫力アップ)



鉄やマンガン、亜鉛などのミネラル分をバランスよく含む、ノンカフェイン飲料です。

④ 子供のころから免疫力を養うため、必要以上に除菌をし過ぎない